

7月11日 (火)

完全無欠

聖書朗読 詩篇 101編

主よ。あなたの道を私に教えてください。私はあなたの真理のうちを歩みます。私の心を一つにしてください。御名を恐れるように。 詩篇 86：11

橋、飛行機、ビルといった大きな建造物を設計し建てる人々は、構造的に無欠で完全なものを作成する責任があります。日々の工事の際、そのストレスに耐えられるのでしょうか。詩篇101編では、ダビデが主にほめ歌を歌い、神様の御前に曲がったわがを憎み、正しい心で生活することを誓っています。

無欠で完全なることは英語でインテグリティーといいます。高校生になると数学で積分を習いますが、この積分に「インテグラル」という記号がでできます。この記号は数字の総和を表すもので、数字の断片を表すものではありません。同様に、人のインテグラルもその人の全体を表します。完全無欠な人となるためには、不可能のある人間に完全を求めるではありません。人間には必ずしも割り切れない人生の目的を与えた方をまず求めるべきです。「まず神の王国を求めなさい」というイエス様の言葉に従って、自分の野心を棄てて、懸命に神の国を求めます。完全無欠に建てられた橋は、重いものがその上を渡っても壊れません。同様に、神様の王国からの完全で無欠な精神に満ちた者は、何があっても持ちこたえる力があります。

讚美歌 66

祈り お父様。あなたの変らぬ誠実さゆえにあなたを讃えます。そして私たちがキリストの中に立つとき、あなたの御前にも非難されることなく立つことができる恵みに感謝します。

キリストの御名をとおして。アーメン。

ケン・ダーラム
テネシー州 ナッシュビル

7月12日 (水)

彼らの神はいずこに？

聖書朗読 詩篇 115：1～8

主を恐れる者を祝福してくださる。小さな者も、大いなる者も。

詩篇 115：13

有名な建築家サー・クリストファー・ウォレンの傑作は、ロンドンのセントポール大聖堂です。1675年から1710年にかけて建てられたこの堂々たる大聖堂は、当時のイギリスの力と富を誇るものでした。今日の大聖堂は、国の英雄たちの偉業を賛え展示する場所となっています。大理石でできた英雄たちの記念碑が地下聖堂と通路に安置されています。それらは語りませんが、祖国に名誉をもたらした将軍や政治家や執筆者たちです。祖国が彼らを栄誉とするのは当然です。

しかし、神様の栄誉をあがめるときは、記念碑によって世俗的な栄誉を受けけるわけではありません。私たちは他人に仕えることによって神様に仕えますが、世間の意見を聞くことによって、自分たちの貢献度を測ることはできません。神様の測りは、人間の測りとは違うのです。

イスラエルの周辺の国々には目に見える形での神をあがめました。彼らの神は人間の富や芸術を展示したものです。これらの金銀でこしらえた偶像が神への栄誉とされたのです。しかし、イスラエルの神——私たちの神様——は違います。礼拝する者の心を喜ばれるのです。私たちの神様は天国におられ、その王国はこの地上にあるわけではありません。

讚美歌 第二編 210

祈り 主なる神様。あなたへの栄誉と自分自身への栄誉を見分けることができますように。あなたへ栄光を。

あなたの御子なるイエス様の御名において。アーメン。

メアリー・エステス
カリフォルニア州 サウザンドオークス

7月13日 (木)

従 順 な 歩 み

聖書朗読 詩篇 119:16

主のみおしえは完全で、たましいを生き返らせ、主のあかしは確かで、わきまのない者を賢くする。 詩篇 19:7

ユダヤ教の指導者たちは、律法を学ぶことを、礼拝することと同様にみなしました。初期の聖書の書き手は、祈るときに神様と話し、聖書を読むときに神様が語りかけられる、とその思いを表現しています。

経験と情緒的なものを求める時代にあつて、聖書の勉強の大切さを強調し続けることが必要です。神様は正しく良い方だと思えば、人々は自分が神様と適切な関係にあると思っています。人々は礼拝に情緒的な表現を求めましょう。しかし、情緒や感情は神様の正しい理解に基づいていなければなりません。実際、私たちが神様のみことばを理解するときには、ものすごい情緒的なものに圧倒されてしまうのです。

聖書を学ぶことは神様に仕えることであり、神様を讃えることと同じなのです。さらに言えば、聖書を学ぶこと、それこそが神様のご意思を学ぶ方法なのです。従順に学ぶことによって、私たちは神様の教えを知り、神様が私たちに何を望まれているのかを知るのです。主イエス様に倣うことによって、その従順さを学ばなければなりません。

信仰への近道はありません。規則正しく祈ることと、聖書を学ぶことだけが自分の精神性を高める唯一の方法です。神様の御ことばが私たちのたましいを豊かにし、精神を高めてくれるのです。

聖 歌 188

祈 り 主よ。あなたのみことばを学んで行う幸せを知ることができますように。イエス様の御名において。アーメン。

エバラット&ナンシー・ファーガソン
テキサス州 アビリン

7月14日 (金)

主の祝福を求めていますか

聖書朗読 詩篇 128編

もし、あなたがたが心を尽くしてわたしを捜し求めるなら、わたしを見つけるだろう。 エレミヤ 29:13

あなたは神様の神性なる祝福を求めていますか。それともただ物質的な恵みが欲しいだけでしょうか。私たちには物や地位をまず求めるという傾向があります。しかし、主の祝福は主を恐れて罪を悔い改め、主の道を歩む者に与えられます。事実、神様は祝福しようとする者に命令し、導き、そして護ってくださいなのです(詩篇 37:23)。自分が得するという個人的な理由からでなく、無条件に神様を喜んでいただくとうすれば、深い満足に満たされることができます。

私たちは『心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』(マルコ 12:30) という約束に歓喜します。これは神様を見つけるのは可能だという意味です。神様はすぐそこにおられ、私たちが見たり聞いたり後に続くのをお待ちになっているという意味です。私たちがそうすれば、人生の一番の目的、神様に栄光を帰することが実現されます(1ペテロ 4:11)。

私たちは皆、神様が報いてくださる方(ヘブル 11:6)、喜んで私たちを榮えさせてくださる方(申命記 30:9)だと知っています。私たちは皆、天国のすばらしさについて知っています(イザヤ 65:19)。しかし、人生の中で、それらすべてに勝る最高の恵み、最高の祝福はキリストを知ることなのです(ピリピ 3:10)。キリストがくださる祝福をその御前に求めましょう。

讃美歌 321

祈 り 主よ。あなたの祝福を求めるだけではなく、私がいからあなたを愛せるように助けてください。

イエス様の御名において。アーメン。

マーク・R・ガイ
オハイオ州 ウェストキャロルトン

7月15日 (土)

それゆえあなたの御名を讃える

聖書朗読 詩篇 142編

さあ、主に向かって、喜び歌おう。われらの救いの岩に向かって、喜び叫ぼう。
詩篇 95:1

わかりました。認めます。私の声は大きいし、大声で歌うのが好きなのです。拍手がなくても歌えます。私の声が大きすぎるのなら家の奥の部屋に閉じこもります。孫たちにドアを閉めさせて、テレビの音量を大きくして、私の歌声が外に聞こえないようにします。なにしろ、私はブロードウェースタイルでけたたましく歌うと定評があるくらいですから。

私の歌声は大きいのですが、ダビデはきっと私の歌声を認めてくれると思います。ダビデは詩篇142編を洞窟で創作したんですから。彼が大声で歌っている様子を想像してごらん下さい。洞窟の中を彼の歌声がエコーしているのが聞こえませんか。彼が歌うのをやめ、エコーがとまったときの静寂が聞こえますか。神様が答えてくださるのをダビデが待っている様子が聞こえますか。そして彼が再び大声で歌い始めるのが聞こえますか。142編の1節、2節、5節、6節・・・彼は一節歌うごとに段々と歌声が大きくなっていったことでしょうか！

そして7節を聞くと、ダビデが大声で歌った理由がわかります。彼が現在いる牢獄から連れ出してもらうためです。そしてダビデは歌っています。『あなたの御名に感謝するようにしてください。正しい者たちがわたしの回りに集まることでしょうか。』

神様をたたえるには、喜びをもって大声で歌う必要があります！神様が私たちに祝福し高くして下さるのですから、私たちはその偉大な御名を大声で叫びましょう！最近大声で叫んだことがありますか。今がその時です。

讃美歌 第二編 25

祈り 主よ。私たちはあなたを讃えるために叫び歌います！あなたはすべてに勝るかたです。他人が私たちの中にあなたの善を見て、あなたが神であると知ることができますように。

イエス様の御名において。アーメン。

ジェス・ペーターソン
テキサス州 ラボック

7月16日 (日)

私たちの信仰

聖書朗読 詩篇 145～1:13

代は代へと、あなたのみわざをほめ歌い、あなたの大能のわざを告げ知らせるでしょう。
詩篇 145:4

私は昔、祖母たちから開拓時代の話聞いて畏敬の念に打たれたことを今でも覚えています。それは夢の世界のようでした。ですが、私はその世界に結びつけられたのです。祖母たちの話を聞きながら、その当時の厳しい現実と驚くような出来事について思いをはせ、何度も祖母に話しをせがみ、私にとってそれは遺産となりました。祖母の話の中で最も大切だったのは、信仰の話でした。開拓者たちがどのようにして神様を知るようになったのか、神様がどのように開拓者たちの生活の中でみわざを行われたのか、開拓者たちはどうして神様を信頼せざるを得なかったのか。生き生きとした当時の話を聞きながら、私には開拓者たちが神様と共に歩いているのが見えるようで、忘れがたい感動を覚えました。

今日の日に神様と共に歩きなさい。そうすればあなたはそのことを誰かに明日話すことができます。次の世代はあなたの話を聞きたがるでしょう。そうすることで、若者の人生に豊かな根を張らせることができるのです。あなたの話が聞き手にとって忘れがたい信仰の話となるように祈っています。

讃美歌 197

祈り お父様。信仰のいのちをありがとうございます。私たちが信仰に誠実をつくるように助けてください。

あなたの御子の御名において。アーメン。

ソニー・ガイルド
テキサス州 アビリン